

あとがき

「VUCA時代」と言われて久しい。

不確実性が高い中での進路選択に重要なことは、自己を知り、社会を知り、自己と社会を接続すること。

あるいは自己と社会を知り、接続しようとする行動そのものではないだろうか。

進路選択にまつわるこれまでの価値観は、学生のバイアスとなるかもしれない。

学生が「彼(社会)を知り己を知る」プロセスを応援する社会に向けて、本誌も微力ながら貢献できれば幸いである。

就職みらい研究所の主な調査

『就職白書2023』シリーズ

『就職白書2023』関連の資料は本誌に加え、プレスリリース『就職白書2023』、『就職白書2023 就職活動・採用活動の振り返りと今後の見通し』があります。

就職プロセス調査

『就職プロセス調査』プレスリリースでは就職内定率(男女・文理・地域別)進路確定率などをタイムリーに発信。

働きたい組織の特徴

働きたい組織について、学生に対立軸で志向性を調査。学生の働きたい組織の志向が分かります。

大学生の地域間移動に関するレポート

大学所在地毎に出身地および就職予定先所在地との関係や、地元就職意向などを分析。

大学生の実態調査

大学生(低学年)の大学生活満足度や今後の進路などの意識・行動を調査レポートとしてまとめています。

* 調査データは出典元を明記していただければ、基本的にご利用いただけます
(例:「(調査名)リクルート 就職みらい研究所調べ」)。ご使用に際して就職みらい研究所サイトTOPページ最下部「よくあるご質問 / お問い合わせ」の問い合わせフォームよりご確認ください

就職みらい研究所のコラム

これからの「働く」を考える

一般的な就職活動以外での企業との出会い方、起業という選択など多様な「働く」を考えるヒントを紹介しています。

新型コロナウイルス感染症に関する企業の取り組み

コロナ禍の採用活動・インターンシップの具体的な取り組みを、採用担当者の方々にインタビューしました。

個人と組織の新たなつながり方

大きく変化している個人と組織のつながり方。新たな方法を導入している企業の事例を紹介しています。

参考文献

- 初見康行(2017)職場の人間関係が若年者の早期離職に与える影響:アイデンティケーションからの実証研究
- 横山明子(2009)大学生の進路選択・決定過程に関する研究:職業的自己実現の観点から
- 時岡良太(2018)、「自分」とは何か 日常語による心理臨床学的探求の試み1, 創元社
- OECD (2023), Unemployment rate by age group 15–24 year-olds, % of labour force, Feb 2023 or latest available. <https://data.oecd.org/unemp/unemployment-rate-by-age-group.htm#indicator-chart> (閲覧日: 2023年2月27日)
- 清家 篤(2013)、「雇用再生一持続可能な働き方を考える」, NHK出版
- 海老原 嗣生(2009)、『雇用の常識 決着版一本当に見えるウソ』, ちくま文庫
- 濱口 桂一郎(2013)、『若者と労働―「入社」の仕組みから解きほぐす―』, 中公新書クラレ
- 伊藤正哉, & 小玉正博.(2005), 自分らしくある感覚(本来感)と自尊感情が well-being に及ぼす影響の検討, 教育心理学研究, 53(1), 74–85.
- Stumpf, S. A., Cotarelli, S. M., & Hartman, K. (1983), Development of the career exploration survey (CES), Journal of vocational behavior, 22(2), 191–226.
- 安達智子.(2008), 女子学生のキャリア意識―就業動機, キャリア探索との関連―, 心理学研究, 79(1), 27–34.
- 安達智子.(2010), キャリア探索尺度の再検討, 心理学研究, 81(2), 132–139.
- 竹内倫和, & 竹内規彦.(2010), 新規参入者の就職活動プロセスに関する実証的研究, 日本労働研究雑誌, 52(2), 85–98.
- 安達智子.(2019), 「自分と社会からキャリアを考える―現代青年のキャリア形成と支援―」, 晃洋書房
- 若松 養亮(2012), 「大学生におけるキャリア選択の遅延―そのメカニズムと支援―」, 風間書房
- 若松 養亮(2020), 「大学生の進路未決定と支援」, 白井利明(編)『生涯発達理論と支援』, 金子書房
- 玄田有史(2004), 「自己実現感、個性感の若者を支援せよ」, 論座, 2004年8月号, 36–39.
- Fretz, B. R. (1981), Evaluating the effectiveness of career interventions, Journal of Counseling Psychology, 28(1), 77.
- 下村英雄.(1996), 大学生の職業選択における情報探索方略 職業的意思決定理論によるアプローチ, 教育心理学研究, 44(2), 145–155.

就職みらい研究所Webサイト・Twitter

調査・研究、コラム記事の最新情報はWebサイトで公開しています。本冊子の内容は「就職白書」のカテゴリから閲覧可能です。

URL <https://shushokumirai.recruit.co.jp>

■ サイトTOPページ(イメージ)

キーワード検索

お探しのデータやコラムに関するキーワードを入力し、検索いただけます

サイトマップ

弊所の調査・コラム一覧をご確認いただけます

タグ検索

表示されているタグのテーマごとに関連した記事をまとめてご覧いただけます

注目データ

最新調査の注目データを紹介しており、リンクから詳細をご確認いただけます

メニューバー

調査・コラムをカテゴリ別にお探しいただけます

TOPICS

新着記事をご確認いただけます

よくあるご質問 / お問い合わせ

データ引用のご希望や取材・講演のご依頼は、こちらをご確認ください

The screenshot shows the homepage of the Shushoku Mirai website. At the top, there is a navigation bar with a search bar and a 'サイトマップ' (Site Map) button. Below the navigation, there are several featured sections: '就職白書 2023' with a prominent '30.3%' statistic, 'TOPICS' section with various articles, and a 'よくあるご質問 / お問い合わせ' (FAQ) section. The layout is clean and professional, with a focus on data and research.

【Twitterでも情報発信中!】

就職みらい研究所 (@Shushoku_mirai) では調査データに基づく就職・採用に関する情報やWebサイトの最新情報などを発信しています。



Twitterへのアクセスはこちら

2023年4月7日発行

■ 発行人・編集人 就職みらい研究所 所長 栗田貴祥

■ 就職みらい研究所 水野理成、清水山隆洋、杉村希世子、徳永英子、中村洋和、林将大、浅見有紗、高見佑奈、吉田美咲、加藤里沙

■ 制作パートナー

編集・執筆: 衣笠可奈子(Polaris)、日笠由紀
調査・集計: 中川陽介
校正: 長谷部美久子
デザイン: KuwaDesign
撮影: CURBON